



秩父版CCRC構想の紹介③

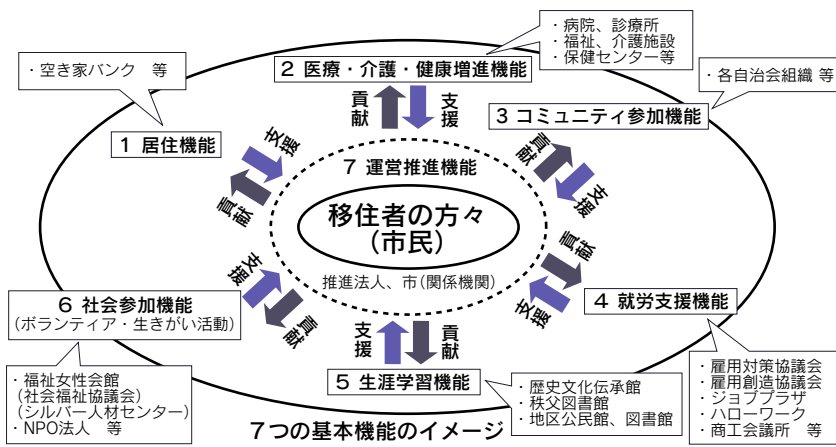
秩父市では、誰もが活躍できるまちづくりのため、「生涯活躍のまちづくり」に取り組んでいます。市報1月号からお伝えしてきました。「秩父市生涯活躍のまちづくり構想(秩父版CCRC構想)」ですが、今月号では、秩父市の生涯活躍のまちづくりの全体イメージをご紹介します。

生涯活躍のまちづくりの果たす役割

秩父市生涯活躍のまちづくりは、単なる移住政策ではなく、移住者のみならず、市民の皆さんも含めた機能を提供していく、「総合的な移住政策」と位置づけていきます。そのためには、次のような7つの基本機能を備えた、誰もが生涯健康で活躍できるまちづくりを進めていきます。

①「居住」

生活の基本である「衣・食・住」のひとつである、「居住」機能としては、空き家バンクの利用など、既存のサービスも活用しながら、住環境を充実させていきます。



③「コミュニティ参加」  
市民の皆さんの町会活動などの地域活動に移住者の皆さんにも参加していただけるような取り組みを進めていきます。

②「医療・介護・健康増進」  
自宅に暮らしながら必要な医療・介護サービスを利用し、生き生きとした生活を安心して送ることができるよう、地域包括ケアによって、医療・介護の総合的な提供を進めていきます。

④「就労支援」  
生涯活躍のまちという考え方から、市民の皆さんや移住者が生涯現役で働き続けられる環境の整備を進めていきます。

⑤「生涯学習」

生き生きとした生活のため、文化活動の環境も重要です。歴史文化伝承館をはじめ、図書館や各公民館での活動の充実を図ります。

⑥「社会参加」

③のコミュニティ参加同様、NPOやボランティア活動への参加など、多様な活動が行えるよう支援していきます。

⑦「運営推進」

①～⑥の各機能を充実させていくため、生涯活躍のまちづくりの主体となる法人や市が必要機能の基盤づくりを行っていきます。

構想推進のための2つのプロジェクト

構想を具体化させ、7つの基本機能を備えた、「総合事業」と「モデル事業」の2つのプロジェクトを並行して進めていきます。

①「総合事業」

市全域において、幅広い年代を対象に、既存施設も活用したお試し居住や「二地域居住」を目指し、

基本機能をそれぞれの分野ごとに市と関係機関、市民が連携しながら機能拡充を図っていきます。

②「モデル事業」

豊島区をはじめとした主に都市部の中高年層者を対象に、1つのエリア(施設)で実施するモデル事業としてのサービス提供拠点施設の整備促進事業を行います。

2つのプロジェクト

主にターゲットとする項目	1 総合事業	2 モデル事業
(1)年代・世代	・幅広い年代(若者、子育て世代も含む) ※家族の形態(一人世帯・一人親世帯など)を問わない。	・主にアクティブシニア(中高年齢層) ※複合的施設の場合は、障がい者、若者も想定される。
(2)どこに住む人を呼び込むか	・幅広い地域から移住者を募集	・主に豊島区をはじめとした都市部や周辺住民
(3)事業対象地域	・秩父市全域(空き家も活用したシェアハウス等を含め当面、「二地域居住」を狙う)	・1つの事業エリア(施設の構築をめざす)
(4)提供サービス(基本機能)	・市内の既存提供サービスを拡充(将来は拠点施設のサービスも含む)	・エリア(施設)内の拠点施設のサービス

昨年10月号から生涯活躍のまちについて連載してきました。これまでに紹介した基本的な考え方をもち、来年度からは生涯活躍のまちづくりを具体化していきます。  
問 地域政策課 ☎22-2823